

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_評価版 使用評価ソフト: CASBEE-8D_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)精華町防災受援施設	階数	地上2F
建設地	京都府相楽郡精華町北福八間打越	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域、土砂	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年3月 予定	評価の実施日	2024年●月●日
敷地面積	33,979 m ²	作成者	〇〇〇
建築面積	1,591 m ²	確認日	202●年●月●日
延床面積	2,308 m ²	確認者	〇〇〇

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.0 ★★★★★☆☆☆☆ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★	★☆☆☆☆☆☆☆☆ 30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超 ★★★★★ 標準計算 ①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²) ②建築物の取組み 88% ③上記②以外の 87% ④上記+ 87% 0 46 92 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 3.3
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.6	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合		
・災害時には各支援隊の活動拠点となるスペースを確保し、平常時は地域のイベントや防災学習の拠点となる計画とする。		
その他		
0		
Q1 室内環境 ・開口部にペアガラス、ブラインドや庇を設置する。 ・事務室、会議室、多目的室、各トイレの壁、天井裏に吸音材を使用する。 ・各室ごとの個別空調方式を採用する。	Q2 サービス性能 ・建築物移動等円滑化誘導基準に基づいた計画とする。 ・長期的なメンテナンスに配慮し、内外装共耐久性、維持管理に優れた仕上げ材を使用する。 ・防災受援拠点として発災後も大規模な補修工事を行うこと	Q3 室外環境 (敷地内) ・多目的運動スペースの腰壁に京都府内産木材を使用する。 ・防災センター周囲は支援物資搬入のためトラック等の寄付け可能なスペースを設けた計画とする。
LR1 エネルギー ・太陽光発電を設置する。 ・電源自立型空調ガスヒートポンプエアコンを採用。 ・自家発電装置	LR2 資源・マテリアル ・手洗いは自動水栓とする。 ・マンホールトイレを設置する。	LR3 敷地外環境 ・災害時、平常時共に柔軟な対応が可能なように駐車場の出入口を複数箇所設け、十分な駐車台数を設ける。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_評価シート 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)精華町防災受援施設	階数	地上2F	外観バース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	京都府相楽郡精華町北福八間打越	構造	S造	
用途地域	市街化調整区域、法22条区域、土砂	平均居住人員	0 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)	
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2028年3月 予定	評価の実施日	2024年●月●日	
敷地面積	33,979 m ²	作成者	〇〇〇	
建築面積	1,591 m ²	確認日	202●年●月●日	
延床面積	2,308 m ²	確認者	〇〇〇	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果
BEE=1.0 ★★★★★☆☆☆☆☆ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 89% ③上記+②以外の 87% ④上記+ 87% このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。	3(保健) 2.2 4(教育) 2.2 5(ジェンダー) 1.0 6(水・衛生) 2.1 7(エネルギー) 1.9 8(経済・雇用) 2.3 9(イノベーション) 1.6 11(都市) 2.1 12(生産・消費) 2.1 13(気候変動) 2.0 15(陸上資源) 1.8 17(実施手段) 2.4

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.3
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.6 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 ・災害時には各支援隊の活動拠点となるスペースを確保し、平常時は地域のイベントや防災学習の拠点となる計画とする。		
Q1 室内環境 ・開口部にペアガラス、ブラインドや庇を設置する。 ・事務室、会議室、多目的室、各トイレの壁、天井裏に吸音材を使用する。 ・各室ごとの個別空調方式を採用する。	Q2 サービス性能 ・建築物移動等円滑化誘導基準に基づいた計画とする。 ・長期的なメンテナンスに配慮し、内外装共耐久性、維持管理に優れた仕上げ材を使用する。 ・防災受援拠点として発災後も大規模な補修工事を行うこと。	Q3 室外環境(敷地内) ・多目的運動スペースの腰壁に京都府内産木材を使用する。 ・防災センター周囲は支援物資搬入のためトラック等の寄付きが可能なスペースを設けた計画とする。
LR1 エネルギー ・太陽光発電を設置する。 ・電源自立型空調ガスヒートポンプエアコンを採用。 ・自家発電装置	LR2 資源・マテリアル ・手洗いは自動水栓とする。 ・マンホールトイレを設置する。	LR3 敷地外環境 ・災害時、平常時共に柔軟な対応が可能なように駐車場の出入口を複数箇所設け、十分な駐車台数を設ける。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される